

Tokyo Tobihino Rotary Club

国際ロータリー第2750地区 多摩南グループ 東京飛火野ロータリークラブ



会長 中澤 洋



幹事 梅田 俊幸

会長テーマ

親睦と友愛を基本とし、地域社会に
根ざした奉仕活動を全員で行う

2019▶20 Weekly Report vol.32-30



ロータリーは
世界をつなぐ

2020年6月30日(火)第1494回 夜間移動例会 会長・幹事引継式 於:寿司正

■司会 SAA委員会副委員長 平吹正義会員

■開会点鐘 会長 中澤 洋

■会長報告 会長 中澤 洋

皆様のご協力で恙無く1年間会長を務めることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

■幹事報告 幹事 梅田俊幸

1年間無事終わりました、感謝します。明日から新年度ですがチャンネルを変えて頑張ります。

■皆出席者発表 出席委員会委員長

平 良信会員

15名皆出席会員に記念員贈呈。

■米山記念奨学生 マキシミリアン・フィッシャーさんに修了書と記念品贈呈

■「会長幹事引継式」 司会

中澤 洋会長より河野和正次年度会長に、梅田俊幸幹事より守重昌之次年度幹事に会長・幹事バッヂが引き継がれ、中澤会長。梅田幹事に記念品が贈呈された。

■閉会点鐘 会長 中澤 洋

■慰労会

平吹会員の司会挨拶で始まった慰労会は、水野パ

ストガバナーの「大変な時期にお疲れさまでした。マックス君も次のステップに上がられるでしょう。皆様の益々のご繁栄とご健勝、ご多幸を祈念して乾杯」で始まった慰労会は、河野次年度会長の「今年度後半はコロナ禍で大変でしたが、6月2週目から例会も再開され、このまま心していきたいと思います。明日から1年間よろしくお願いします。」の挨拶の後、打ち解けて懇談となりました。今晚の慰労会も3蜜を考えて行われました。東京都の感染者が2桁続きで心配されます。プロ野球の開幕、女子ゴルフ、都知事選、日野都議補選の話題と大変だった1月以降、特に4月第2週から例会も中止に追い込まれ大変だったことを皆で振り、親睦を深めることができました。中澤会長・梅田幹事ありがとうございました。

出席報告	総数	出席	MU前	MU後	欠席	出席率
第1494回	23	19	1	-	3	86.9%
第1491回	23	17	3	0	3	86.9%

ニコニコBOX

本日 0円 累計 834,000円
本年度目標額1,200,000円 達成率69.5%

※今週のメイクアップ 結城さん
※先々週の後メイクアップ なし



★トピックス

- 1.6月25日 女子プロゴルフ開幕。
- 2.6月26日囲碁の芝野名人が最年少20歳で「十段」奪取、十段、王座、名人の3冠に。
- 3.6月29日無観客の女子ゴルフ、渡辺彩香選手5年ぶりの優勝。
- 4.6月30日東京都感染者25日以降50人以上で28日は60人確認。

……コロナ禍で……

本年3月まではコロナ禍の中でも例会が開かれ、計画したプログラムも実施できました。しかし、今年に入り世界で新型コロナウイルス感染症の拡大がみられ、今年度の第四四半期に入るとコロナ禍で、我がクラブだけでなく世界中のクラブが、例会の休止、地区・RIでプログラムの中止と活動が停止の状態に追い込まれました。当クラブでは新規事業の第一回東京飛火野ロータリークラブ杯「日野市ミニバスケットボール連盟ウインターカップ」が中止、ひのスプリングフェスタのコーヒー無料配布・浅川クリーン作戦など目星いプログラムが中止になりました。6月に入り第2週から例会が再開されましたが、東京では「東京アラート」解除後も感染者が2桁で24日には55人と増加が止まりません。海外でもブラジルやアメリカの一部の州で拡大がみられます。このような状況で、表に出てもマスク姿がほとんどで、我がクラブ例会もマスク着用と正常ではありません。「やあやあーと握手」もできず、メーキャップもできません。これからも新しい生活様式は必要で、3蜜が求められます。イタリアでは最初に死者を出した町で町民にPCR検査を実施し新型コロナウイルスに感染しているかを調べたところ、感染者の4割以上が無症状だったと同国のパドバ大学などの国際研究グループが科学誌「ネイチャー」に発表。無症状に人がいつも通り行動することで感染を広げる可能性があるとして検査で完成委の有無を確認することの重要性を指摘。わが国でも第2波、第3波が予想されます。しかし、そのような中で、世界中の医療関係者が日夜を問わず奮闘で、ワクチン開発・治療薬の開発に取り組んでおり、人への治験も始まっています。多くの困難を乗り越えてきた人類ですから、新型コロナウイルスをいつまでも野放しにすることはないのではないのでしょうか。油断することなく、日々の生活で3蜜を心がけ、感染しないように注意を怠ってはいらないと思います。

WHOの事務局長は29日の会見で、感染症のパンデミックについて、「終息には遠い」と述べ、「多くの国で改善がみられるものの、世界的にはパンデミックが加速している」との認識を示しています。

……コロナ禍に想う……

ウイルスによる大規模な感染は、1720年のペスト、1820年のコレラで、100年ごとに発生。そして100年後、スペイン風邪は1918-20年世界各国で極めて多くの死者を出したインフルエンザによるパンデミックの俗称、アメリカカンザス州の陸軍基地が発生源と言われ、米軍の欧州派遣で感染が広がる。スペインで大流行してスペイン風邪と呼ばれたがスペインが発生源ではない。世界で世界人口の1/4の5億人感染、死者は2000万人から2億人ともいわれる。原因ウイルスはインフルエンザE型と判明。1918-20年までの日本人の感染者内地の人口5000万人で死者45万人といわれる。当時の新聞は、マスクの着用、人混みに出ない、帰宅時のうがい、大きなイベントの中止、学校の休校、患者の隔離を呼び掛けた。当時の感染者死者は若い人に多かった。これを見ると今の新型コロナウイルス対策と同じです。1920年代過ぎると日本は自然に鎮静化し、スペイン風邪を引き起こしたH1N1型ウイルスが、日本の隅々まで拡大し、もはやそれ以上の拡大する限界を超えたからだ。そして生き残った人々が免疫抗体を取得したからと言われている。1918年秋から19年春にかけて100万人感染死者25万人、第2波は19年10月から20年2月ごろまでで、1月の死者55千人、2月は38千人といわれます。1次感染が穏やかだった地域ほど激しい流行を来した。免疫が関係した。

100年前に経験した人は、ほとんどおられないかと思いますが、記録は残り、学ぶべき教訓は生きています。

それから100年後、新型コロナウイルス感染症は3月11日、WHOが「パンデミック」と発表。わが国でも感染拡大。国は4月7日「緊急事態宣言」発動。3蜜が新生活様式の基本に。5月14日緊急事態解除、そして、6月11日に東京アラートも解除、解除後、東京の感染者は0の日はなく6月20日以降は2桁が続き、24日には55人で増加傾向にある。東京アラートは何だったのでしょうか。季節の移ろいの中で、東京を除き全国で感染拡大は収まっています。しかし、東京はとびぬけた感染者数です。警戒感の欠如か。潜在患者が多いのか。いずれにせよ「新生活様式」の遵守が求められます。

第2波、第3波は来ないと断することはできません。古くから「油断大敵」といわれ、油断は禁物です。政府も医療関係者も、新型コロナウイルスを「虎を野に放つ」にはいかず、ワクチン・治療薬の開発に日々研究を重ねています。すでにアメリカでは人の治験に入っています。恐れ慄くだけでなく、今は、いろいろ多くを求めず忍耐の時です。共に健康に留意しましょう。